



水越さくえ

セブン&アイ・ホールディングス
顧問



1985年は、国連が提唱した「国際婦人年」の最終年で、日本で男女雇用機会均等法が制定された年でした。その12月、イトーヨーカドーグループの社内報を編集していた私は、「女の井戸端会議」と銘打った連載企画を始めました。各界第一線で活躍する女性を講師に招き、グループ内から募った30人前後の女性社員たちと「働く女性」について語り合ってもらおうという内容です。「女性の活躍には、まず女性たちが働くことを通じて自分を輝かせる道を見つけることが大切」と

いう思いを込めました。講師の顔ぶれは広告、出版、ファッション、製造業、官界など多岐にわたり、その後親しくお付き合いいただいた方も少なくありません。1年の連載を終えた後、女性社員からもっと勉強したいという声上がり、自主的な勉強会「青葉会」を立ち上げました。伊藤雅俊名誉会長、鈴木敏文会長はじめ幹部も喜んで同会の講師を引き受け、応援してくれました。同会からは、セブン-イレブンの山口積恵さんとイトーヨーカドーの私がグループ初の取締役役に就任するなど、多くの女性管理職も輩出。その後、私は常務取締役を務め、特例子会社テルベやセブン&アイ出版社長を兼務するなど多分野に仕事が広がり、エキサイティングな現役時代でした。

そして、セブン&アイ・ホールディングス設立時には、「女性の活躍推

進」も経営方針の柱に。「ダイバーシティ推進プロジェクト」などを通じて活動は発展し、2014年度には第1回「女性が輝く先進企業」内閣総理大臣表彰も授与されました。グループ(国内)の女性役員数も40人(内、社外7人、監査役含む)となり、女性役員が当たり前の時代を迎えています。女性の活躍が日本経済再生の鍵といわれる昨今ですが、これからも私自身、若い社員たちと語り合い、発信し続けることで、社会や会社への恩返しができるかと願っています。

それは「井戸端会議」から始まった



青葉会を共に立ち上げたころのセブン-イレブンの山口さん(正面中央左)と私(右)



ダイバーシティ推進プロジェクト主催のセミナーでの講演